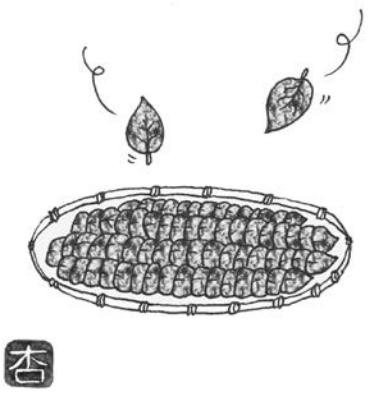
毎日が、散歩の途中 26

おみやげ



文と絵　岡本 杏子

娘が小学生の頃、彼女はよく学校の帰り道で拾った「すてきなもの」をおみやげに持ってきてくれた。

それは、背の低い小さな花のこともあれば、きれいな色の石や、帽子付きのどんぐりのこともあった。子どもの目には、鳥の羽も、車のフロントガラスの破片も、近づいて手に取りたくなる「すてきなもの」に映ったに違いない。

高学年になるとさすがに石や羽はなくなったが、6年生になっても娘はよく花を摘んで帰ってきた。私が小さなコップに活けるのを満足気に見届けてから、私にまとわりついて今日学校で起きた出来事を一気に喋っていたものだ。

そんな娘も今や中学生。道端の宝物には目もくれず、歩きながら友達とのおしゃべりに夢中になり、帰ってくれば、「ただいま」の次の一言が、「おかあさんにおみやげ」から「はらへった〜、なんか食べたい」に変わってしまった。夫とひどい口論になった。家の中は突然重力を増したように張りつめた空気になり、逃げ場のない娘は黙って身を縮めて耐えていた。1時間と経たないうちに私たちは互いに謝りの言葉を言い、娘の前で仲直りをしたのだが、いさかいの後の空気は気まずく、会話も途切れがちだった。

だけどこれも人生の一コマ。いつまでもおみやげの木の実を手渡されるのも考えものだし、いずれは「はらへった〜」の大声を懐かしく思い出すことになるのだろう。

ところで先日、夫が仕事から帰宅するなり、「おみやげだよ」と小さな紙袋を私にくれた。珍しく、と書くと夫に悪いが、かなり久しぶりな気がする夫からのおみやげである。

袋を開けると、白い包み紙にくるまった「くりーむパン」が四つ入っていた。芸能人ご用達としてテレビでもよく紹介され、私も一度食べてみたいと思っていた有名スイーツだ。「前から店の前を通るたびに買って帰ろうと思っていた」と夫。私と娘は大喜びで食後にペロリとたいらげた。

翌朝、夫と娘を見送った後、掃除機をかけていて、ああ、と気がついた。

数日前、ささいなことからとがな今店神岡

岡本 杏子（おかもときょうこ）
神奈川県生まれ。世田谷区在住のライター。店舗・住宅・人物の取材執筆を得意とする。今までに経験した職は巫女さんや写真家秘書などアルバイトと正社員を含めて20を超えるが、ライター業に落ち着き、はや15年。散歩と晩酌と猫をこよなく愛する、一女の母。

特別寄稿

韓国のご飯

朝日新聞社　牧野 愛博

10月末にスイス・ジュネーブに出張した。米国と北朝鮮が核問題で協議をするという。北朝鮮代表団は自分たちの予定を公開しないから、取材の仕事はつらい。宿泊先のホテルや協議をやっている場所の前で、張り番をずっとしないといけないからだ。

ただ、久しぶりの欧州出張だから、楽しみもある。韓国でなかなか味わえない食事にありつけるからだ。

最近のソウルは、あちこちに洋食店やパン屋ができて、一級の国際都市といった風情だが、それでも食には保守的なお国柄。個人的に美味しいハムやチーズ、ワインを見つけるのに苦労する。韓国人の知り合いも「同じワインなのに、韓国は日本の倍の値段がする」と怒る。それだけ、需要が少ないのだ。

ジュネーブは物価が高いから、財布と相談しながらの行動になるが、朝から早速、美味しい食べ物を見つけに出かけた。ホテルの近所でやっているカフェを発見。ホテルで張り番をしながら食べようと、パニーニや紅茶を持ち帰りで頼んだ。チーズやハムを一杯挟んで焼いてもらったパニーニが7フラン（約600円）。高いけど、やっぱり美味しい。ボリュームがあったが、たちまち平らげた。

夜、北朝鮮代表団が食事に外出した隙に、ホテルの外に飛び出した。今度はジュネーブの中央駅近くでステーキハウスを発見。フランス語で話しかけるウエートレスに、つたない英語と身振りでサラダとステーキに白ワインを頼んで良い気分になった。「スイスはワインを輸出しないから、スイスに行ったらスイスワインを飲んだ方が良い」と友人に教えてもらった。

最初は調子よくやっていた私だが、滞在が1週間近くなると、だんだん元気がなくなってきた。ステーキというと付け合わせはフライドポテトだし、ご飯に出会う機会もあまりない。一度、国連の施設の中にあるカフェテリアでカレーを頼むときに「半分の量にして」とお願いをしたのに、それでも韓国の食堂で出てくる量より多い。胃がもたれて調子がよくない。

帰りはパリから大韓航空機に乗った。ワゴンを押した客室乗務員が食事のメニューを聞いてくる。「ステーキとビビンパプとどちらが良いですか？」。私は勢いよく答えた。「もちろん、ビビンパプにこの話をしたら、笑われた。「5年間、ソウルに住んで、ようやく韓国人になったな」。

体重は1週間でもとに戻った。

町ネタ 東西南北

三菱一号館美術館所蔵 トゥールーズ・ロートレック展

「アリスティド・ブリュアン、彼のキャバレーにて」1893年　リトグラフ、ポスター

開催中〜12月25日(日)
三菱一号館美術館（東京・丸の内）
☎5777−8600
一般1300円

三菱一号館美術館所蔵のトゥールーズ＝ロートレックによるポスター及びリトグラフは、ロートレック自身が生前自分のアトリエにおき、今日までそのまま伝えられた貴重なコレクションです。この作品群を画家の没後に引き継いだのが、青年時代からその活動を常に支えた親友の画商モーリス・ジョワイヤンでした。彼は生前にロートレックの展覧会を開催し、画家の早世後は遺産管理者となって、生地である南西フランスの古都アルビに画家の名を冠した美術館を設立することにも尽力したのです。

本展では、三菱一号館美術館とアルビのトゥールーズ＝ロートレック美術館との姉妹館提携を記念し、三菱一号館美術館所蔵のポスター・版画コレクションに加えて、ロートレック美術館より、家族と過ごしたアルビ周辺での日々やジョワイヤンとの友情を示す油彩等を展示し、画家の心の拠り所であった故郷アルビの街とパリ、モンマルトルの歓楽街での創作活動を対比的に再構成して紹介します。

ゆったりとお酒と食事を愉しむ

天ぷら ゆずりは

JR駒込駅東口から続くさつき通りを直進。霜降橋交差点手前の紳士服量販店手前を一歩入ったところに佇む天ぷらのゆずりは。

7人も入ればいっぱいとなる小さなお店はカウンターのみ。足かけ三年となる経営は、落ち着いた隠れ家的な立地と気取らない雰囲気を好む根強い常連に支えられている。

お酒はビール、日本酒、焼酎など厳選された銘柄を揃えている。これらお酒と料理を軽

旨い野菜の天ぷらをはじめとして、メニューには、海老やキス、イカ、メゴチの天ぷらを中心に、焼魚、刺身、玉子焼といった酒の肴にもぴったりな品々が並ぶ。

手軽に賞味できる天ぷら盛り合わせは、海老・イカ・キス・野菜2品で750円、天ぷら野菜盛り合わせは650円とリーズナブルな価格設定。

くつまんでも2000円から2500円ほどで楽しめるだろう。

人気のランチは、天ぷら定食（海老・キス・イカ・野菜2品・小鉢・お新香・みそ汁つきで850円！）。天丼（850円）、刺身（800円）、焼魚（750円）、煮魚（750円）の各定食があり、。

・豊・駒込2−9−11 加藤マンション1階
・☎5974−0056
・営業時間　11時30分〜13時30分　17時30分〜23時30分（土祝は夜のみ営業）
・定休日　日曜日

2012年 年賀状も
インターネットでご注文
ネット価格 @29円
通常写真は ネットで @7円!!
グーグル・ヤフー 検索
アオヤギ写真 | 検索
田端生まれの
(株)アオヤギ写真工芸社
ネット事業部
〒114-0004 東京都北区堀船3-32-1 TEL: 03-3919-1234

【町ネタ東西南北参照URL】●三菱一号館美術館 http://mimt.jp/lautrec2011/